

小石川界限散策

6月1日(日)だというのに33℃という猛暑、今年はことのほか暑い。

栗林君の計画で参加者は高橋君と私の計3名。人数が少なく少し寂しいが、よる年なみに動きが鈍くなったのかなあ。今回は水戸光圀ゆかりの小石川後樂園、こんにやく閻魔、小石川植物園を歩いた。

小石川後樂園は水戸徳川家の初代頼房が中屋敷として造り始め2代藩主水戸光圀が完成させた回遊式の築山泉水庭園である。入口正面に枝垂桜があり、その先が庭園の中心である蓬莱島がある。



樹齢60年の正面の枝垂桜



庭の中心蓬莱島

先ず、延段と称する大小の自然石と切った石を組み合わせた中国風の石畳を通り水戸藩書院のあった内庭に行く。書院のないのが寂しい。



延段



内庭

引き続き回遊路庭園に戻り、庭園は菖蒲の花が咲き、池には鯉や親鴨や親鴨に連れられた5羽の子鴨が親について泳いでいる。鴨親子の関係は、時の暑さを忘れさせる。



菖蒲の花

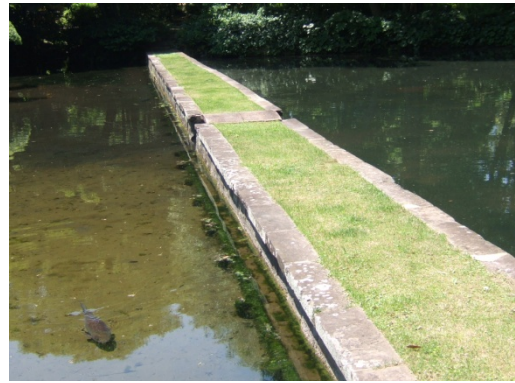


親鴨と子鴨

この庭園は中国の人の意見を用いて造成しただけに円月橋、西湖堤等中国の名勝の地名がつけられているところもある。円月橋は水面に映る形が満月に見えるから付けられた名称で、明の学者が設計したそう。西湖の堤は杭州の西湖の堤を見立てたそうだが、スケールが違う。しかし日本の庭は箱庭的な美しさがある。



円月橋



西湖の堤

小石川後樂園を出て国道254号線沿いに歩くと大河ドラマ「春日の局」が放映された時に作成された(1989)「春日の局」の像がある。春日の局は明智光秀の家臣斎藤利三の娘で徳川家光の乳母であり、大奥を確立した方である。

春日の局像



こんにくく閻魔のある源覚寺に立ち寄る。

こんにやく閻魔は右眼が黄色く濁っているのが特徴で、伝説によれば老婆が眼を患い、願をかけたところ治癒し、閻魔様は以来右目が黄色く濁り、老婆はお礼に好物のこんにやくを奉じたという。庶民信仰の場である。また、一角にお地蔵さんに治癒したい部分にお塩をつけると治癒するというご利益のある塩地蔵尊がある。

また、意外なのは元禄3年(1690)に造られた鐘がサイパン島の南洋寺に搬出されたが、戦争のため一時行方不明になり、1965年にテキサス州で発見され、1974年に返還された汎太平洋の鐘がある。



こんにやく閻魔入口



こんにやく閻魔



塩地蔵尊



汎太平洋の鐘

昼食後、小石川植物園に行く。

小石川植物園は江戸時代の小石川薬園を源としており、今は東大大学院理学系研究科附属植物園という長い肩書をもった植物学の教育・研究を目的としているようだ。

植物は、日本はもとより朝鮮半島、中国を含む東アジアの植物1500種余りが広大な土地に植わっている。植物にはメタセコイア、遺伝学のメンデルゆかりのブドウの木、物理学者ニュートンゆかりのリンゴの木等がある。

ブドウの木はチェコでメンデルが実験にもちいたブドウの木を分株したものを贈られた

ブドウの木であり、ニュートンのリンゴの木は英国からニュートンの接木を贈られ日本で接木したものである。

日本庭園には旧東京医学校本館の紅い建物があり、印象的で、ここにも菖蒲が咲いていた。

木々が密生しており都心の中の緑のゾーンという感じで別天地の心地がした。

楽しい心地良い疲労感を持って帰宅した。 (井田 記)



植物園入口



鬱蒼とした植物園



旧東京医学校本館



メンデルのブドウの木



ニュートンのリンゴの木



リンゴの実